

- 学生の皆さんの出版を祝して -

『旅行記の出版を記念して』

音田 茜

本の出版にあたり、4年間を過ごしたこの京都外国語大学に、この度本を寄贈させて頂きました。

本の紹介と多少重なりますが、私はこの4年間に、20カ国を旅しました。本の方で紹介しているのは、その中の18カ国、中国、カナダ、アメリカ、エジプト、ソウル、メキシコ、ベリーズ、キューバ、コスタリカ、パナマ、タイ、ベトナム、カンボジア、マレーシア、シンガポール、ペルー、ネパール、インドネシアについてです。これらの国々には大学の夏休み、春休み、そしてこれを書くのはよくないかもしれませんが、航空券の安い時期に授業を休んで行ったりしました。

私の旅は往復の格安航空券片手にリュック一つで着のみ着のまま旅をする、いわばバックパッカーです。時間はあるけどお金はない、それが大学生です。その中でバイトをして、お金が貯まったら世界を旅します。



キューバの女性たちの日常生活

「私たちは羽を持っている。」これがこの本全体を通しての私からのメッセージです。学生生活の過し方は正に十人十色です。私はこの本の中で、必ずしも世界を旅することを強要しているわけではありません。それぞれがそれぞれの「羽」を見つけることが大切だと思っています。その「羽」はやはり、日々を豊かにするものであり、できれば、これだけは誰にも負けないというものであった方がいいと思います。私にとってはそれが旅で

した。その理由は、小さな頃からの夢だった、「世界一周」という夢を叶える為、そして視野を広げる為です。

旅は人生の縮図ではないかという思いが、私の中に確信としてあります。というのは、旅は出会いと別れの繰り返しです。何か意図を持ってその地へ赴き、誰かと、あるいは何かと出会い、自らの心に何らかの影響を残します。時としてそれは後の人生に作用します。その思い立った時点で全てがリンクしているとすれば、運命的なものは存在すると思います。そして何より大切なことは、それを決めているのは全て自分自身だということです。

この本を出版することになったのは、インターンシップでお世話になった出版社の社長のお導きと私の「何か伝えたい、残したい」という強い強い想いによるものです。本当に熱意を持ってやろうと思えば何でもできると実感しています。そしてその強い想いは知らず知らず周囲の共感を呼び、気が付いたらたくさんの温かい人達に囲まれています。それが「羽」であり、宝物です。

私は卒業後、旅行会社に就職します。これまでの経験が大いに発揮できると思います。そしてこれまでに会った人々、これから会おう人々を大切に、いつまでも夢を持ち続けたいと思います。

最後になりますが、私はこの大学で、学生という貴重な時間の方にお金以上の価値を見出し、何とかしてお金をかき集め、共に旅することができずばらしい仲間に、会えることができました。後輩のみなさんには、ぜひ、よき出会い、よき友を持って欲しいと思います。そして「私にも羽がある」ということをいつも思い出してくださいね。みなさんの大学生活が今以上にすばらしいものとなることを願っています。

おんだ あかね

(2002年度イスパニア語学科 卒業生)

